

企画・編集：竹中大祐 兵庫県立がんセンター 放射線診断科

序 説

日常診療における画像診断において、多くの疾患が典型的画像を呈する場合は診断が容易であるが、非典型的症例に遭遇し、診断に難渋することのほうが多い。この際にデスクサイドに常備するテキストに手を伸ばすことになるが、テキストは典型的症例の画像と解説からなり、非典型的症例のすべてをカバーしておらず、逆に非典型的症例を網羅するテキストを作ることは不可能でもある。

今回、その間を埋める第一歩に、普段使用しているテキストを補完する症例集を目指す特集を企画した。呼吸器画像診断の第一人者の先生方に、テキストに載せられなかった、典型的ではないが日常診療で注意すべき症例の提供をお願いした。非典型的症例のため、全体を通じて統一する解説は行わず、できるだけ大きな画像をならべ、各症例に簡潔かつ要点を得た解説で構成した。

まず始めに、筆者が非典型的画像を呈する肺癌のなかで遭遇する可能性が比較的高い症例を提示し概説した。続いて、角 明子先生らには円形結節を呈さない転移性肺腫瘍をパターン別に解説いただいた。岡田文人先生らには混合感染へのアプローチ法から現在世界を席巻するCOVID-19肺炎と鑑別すべき症例の知見にも触れていただいた。岩澤多恵先生らには最新の動向を踏まえて多くの間質性肺炎の症例を提示いただいた。西山 晃先生らには日々進歩する癌化学療法に合併する薬剤性肺障害を解説いただいた。いずれも貴重な症例を提供いただいたことに深謝するとともに、本企画の趣旨に沿う解説が日々の画像診断に資するものとなったことを確信している。

まずは、一通り画像を眺め、解説を流し読みいただき、デスクサイドのテキストの横に置いていただきたい。そして非典型的症例に遭遇した際にテキストに続いて開いてほしい。明日からの診療の役立つことを祈念している。

竹中大祐